

提案者※敬称略	今期の協議テーマの提案内容	備考	今後の議論へ向けて確認したい情報、その他意見	仙台市教育構想2021の関連項目
齋藤 愛	<p>①市民センターが果たす社会教育の役割、現状、将来への展望</p> <p>②仙台市ではどのような人も「読書活動」を楽しめているのか、読書は社会教育(生涯学習)にどう必要なのか</p>	<p>①市民センターの利用が高齢者中心となっていると思われるが、その現状把握と将来、どういう活用をしていくべきかを考えてみたい。</p> <p>②視覚障がいをもつ子から「読書を楽しめる環境が少ない」という現状を聞いた。また、子ども読書活動推進計画2024を読んでもっと突っ込んで知りたいと思った。</p>	-	<p>【①②】基本方針Ⅳ 生涯にわたり誰もが主体的に自分らしく学べる機会の充実 Ⅳ-1 ライフステージに応じた学びの支援 【①】施策 市民の主体的な学びの支援(Ⅳ-1-①) 【②】施策 学びにつながる支援の充実(Ⅳ-1-④)</p> <p>【①】基本方針Ⅴ 学びでつながり、郷土を愛し絆を深める地域づくり Ⅴ-3 地域づくりに向けた学びの推進 施策 地域における学びと実践の機会の充実(Ⅴ-3-①)</p> <p>【②】基本方針Ⅲ 個性に応じた一人ひとりの学びを促し、長所を引き出す学校教育 Ⅲ-1 多様性に応じた教育機会の確保 施策 特別支援教育の充実(Ⅲ-1-②)</p>
中山 慎也	<p>①社会体育とスポーツ振興について</p> <p>②防災文化について</p>	<p>①今後の国体の在り方や、仙台市立八軒中でのバスケットボール指導者の活動がニュースになっていた。 社会体育施設(屋内・屋外)の利活用の状況は？ 経済的な理由で、社会体育に積極的に参加できなくなっていないか？(特に子供について) 子供の外遊びの居場所となる公園の状況は？ 中学校の部活動の地域移行を支援するスポ少や外部指導者の状況は？ 都市部と山間部で、部活動の地域移行や社会体育についても、困難さに大きな差があるのでは？ 野球・サッカー・バスケットボールなどのプロチームを擁する仙台市だが、競技人口規模の比較的小さな競技について、それらの活動状況や何か困りごとが無いだろうか？ 競技人口規模の小さな競技の場合、人口規模の小さな自治体での活動や維持がより困難だと予想できる。仙台の場合、どのような様子なのか気になる。</p> <p>②防災文化とは何を意味するのか。 誰が学ぶのか。(次世代の子供、高齢者) 楽しく学べるのか。 参考:災害文化 https://city.sendai311-memorial.jp/saigaibunka/</p>	<p>在留外国人にとって何らかの社会教育活動に参加しやすい仕組みがあるのか、興味がある。訪日外国人(観光客)であれば、仙台市内の観光地における外国語表記の程度や、通訳できる人材の有無などのことも含まれるが、観光客向けの内容ではなく、仕事や勉強のために在留している外国人(仙台で生活をする単身者や家族連れ)が、何らかの社会教育活動に参加できているのか、その機会の提供はどのようになっているのかという点に興味関心がある。</p>	<p>【①②】基本方針Ⅱ 健やかな心身を備え、豊かな人生を拓く力を育てる学校教育 【①】Ⅱ-3 健やかな体の育成 施策 体力の向上を目指した運動の日常化の推進(Ⅱ-3-②) 【②】Ⅱ-4 危機対応力の育成 施策 仙台版防災教育の推進(Ⅱ-4-①)</p>
沼里 理恵	<p>①コミュニティについて</p> <p>②情報化社会に対応した教育について</p> <p>③多世代交流・人材育成について</p>	<p>①コミュニティの大切さが言われている一方、使い勝手のよい言葉であったり、地域性によって異なる部分もあるような気がしているので、コミュニティというものの、その大切さや教育という視点での働きをもう一度見直したい。</p> <p>②膨大な量の情報の中から必要な情報が手軽に入手できる時代になったけれど、入手した情報を見極め判断することや、考え用いるということをもっと意識したい。 対面でのコミュニケーションが少なくなる世の中の流れの中で、精神面や感覚的なものなど、時代の変化とともに、より意識して養わなければならない分野があるような気がしている。</p> <p>③どの地域でも担い手不足が課題となっている。コミュニケーションの希薄化、共働き、介護など、様々な理由から、地域を維持するための人材育成は、育成される側の精神的な壁や負担が大きく、関わりたいという気持ちになれないのが現状。しかしながら、地域を維持していくための人材は必要。 こういった側面を踏まえつつ、地域内のネットワークを維持サポート、必要に応じて新しいものを構築する新しいアイデアについて教育の分野からも考えたい。</p>	<p>①学校へ行っていない子どもたちへの情報の伝達方法のアイデア、発信の仕方</p> <p>②フリースクールや寺子屋など、個人で活動をしている団体への公的な支援について</p>	<p>【①】基本方針Ⅴ 学びでつながり、郷土を愛し絆を深める地域づくり Ⅴ-3 地域づくりに向けた学びの推進 施策 地域における学びと実践の機会の充実(Ⅴ-3-①)</p> <p>【②】基本方針Ⅰ 夢と希望を持ち、自らの可能性に挑戦する力を育てる学校教育 Ⅰ-2 ICT教育の推進 施策 ICTを活用した協働的で一人ひとりに適切な学びの推進(Ⅰ-2-①)</p> <p>【③】基本方針Ⅳ 生涯にわたり誰もが主体的に自分らしく学べる機会の充実 Ⅳ-2 学びを支える人材育成 施策 社会教育事業に携わる職員の育成(Ⅳ-2-①) 施策 自ら学ぶとともに、市民の学びをサポートする地域人材の育成と活躍促進(Ⅳ-2-②)</p>
松本 大	<p>①子どもの社会教育と放課後の支援について</p> <p>②居場所をつくる社会教育のあり方について</p> <p>③学校づくりに果たす社会教育の役割について</p>	<p>①前期は子育て支援の活動を取り上げたので、今期は子どもが主体となって取り組む社会教育を主題としてもよいと考えた。過去の協議テーマをみても、子どもの主体的な活動それ自体を中心に取上げたことはないように見える。令和5年にはこども基本法施行、こども家庭庁設置、仙台こども財団設立など、社会的なタイミングとも合っている。具体的な対象としては、子どもの放課後活動、子ども会、ジュニアリーダー、子どもの遊び場、自然体験などが想定される。</p> <p>②近年「居場所」という言葉が社会に広がり、人びとにとって居場所があるかないかということが重要な関心事になっている。「居場所」をキーワードにすれば、子ども・若者から高齢者まで様々な人びとを対象として検討することができると同時に、ひきこもりなど居場所を必要とする人びとの社会的な課題についても考えることができる。具体的には、子どもの居場所、若者の居場所、社会的に困難を抱える人びとの居場所、高齢者の居場所などが想定される。</p> <p>③仙台市では令和5年にすべての市立学校・幼稚園へのコミュニティ・スクールの導入が完了し、学校の運営にいかに地域住民が関与するのかが課題になっている。昨今ではPTAのあり方も社会的な話題になっており、保護者と学校との関係のあり方も問われている。また、令和5年度には仙台市において公立夜間中学や不登校特例校も始まり、多様な学校における多様な学びを地域でどのように支えていくのかも重要な地域課題である。5期前、平成27年に同様の協議テーマで実施されているが、現在の社会状況を考えれば今期のテーマとして取り上げることには問題はないと思われる。具体的には、コミュニティ・スクール、コーディネーター、PTA、部活動地域移行、不登校などが想定される。</p>	-	<p>【①】基本方針Ⅳ 生涯にわたり誰もが主体的に自分らしく学べる機会の充実 Ⅳ-2 学びを支える人材育成 施策 自ら学ぶとともに、市民の学びをサポートする地域人材の育成と活躍促進(Ⅳ-2-②)</p> <p>【①②③】基本方針Ⅴ 学びでつながり、郷土を愛し絆を深める地域づくり 【③】Ⅴ-1 社会全体で子どもを育てる環境づくり 施策 地域とともに歩む学校づくりの推進(Ⅴ-1-①) 施策 学びを通じた地域づくりの推進(Ⅴ-1-②) 【②】Ⅴ-2 家庭教育の支援 施策 保護者の不安や悩みに寄り添う取組の推進(Ⅴ-2-②) 【①】Ⅴ-3 地域づくりに向けた学びの推進 施策 地域における学びと実践の機会の充実(Ⅴ-3-①)</p> <p>【②③】基本方針Ⅲ 個性に応じた一人ひとりの学びを促し、長所を引き出す学校教育 Ⅲ-1 多様性に応じた教育機会の確保 施策 不登校対策の推進(Ⅲ-1-①)</p> <p>【③】基本方針Ⅱ 健やかな心身を備え、豊かな人生を拓く力を育てる学校教育 Ⅱ-3 健やかな体の育成 施策 体力の向上を目指した運動の日常化の推進(Ⅱ-3-②)</p>